

片マヒゴルフ大会 目標と戦い

城所 佳夫（日本障害者ゴルフ協会会員）

森山会長の著書の中に、ゴルフボールが青空に舞い障害を受けて初めてゴルフ練習場でボールを打ったときの光景が、文字に成っていました。

この本を見たときに、自分も打ってみたいと思い、近くのゴルフ練習場に行ったのが初めての試みでした。左手だけでボールを打つがうまく打てません。玉はせいぜい10メートル程しか、ゴロゴロと転がるだけで飛んでくれませんでした。あまり面白く無かったことを覚えています。

しかし、ゴルフ練習場まで約1キロの道のりを歩くのがリハビリに大変役に立ちました。

歩くだけでは、リハビリがあまり面白くないと思いました。

何か目標を持たないと長続きしないし、効果を上げるのは困難です。楽しみを自分の力にと思い、毎日の日課にしました。やがて歩くことは苦にならず、ゴルフボールは10ヤードから30・50と延び、やがて150～170ヤードと飛ぶようになり、面白くなり、障害を持つ私にも、趣味として取り入れることが出来ました。

ある日テレビに、日本障害者ゴルフ大会の放映があり、日本障害者ゴルフ協会を知りました。月例会が毎月開かれていました。そこには多くの方が障害者ゴルフを楽しんでいました。片足を切断した人・片腕の切断・知的障害者・車椅子使用者・片マヒ障害者・懸命にプレーをしています。その方々に勇気と健康を教えてくださいました。

2001年、日本障害者ゴルフ大会（片マヒの部）で三位入賞し大会で幾つかの賞をいただきました。昨年（2005年）はプレーオフの末二位になりました（インターネット

日本障害者ゴルフ協会ホームページに詳しく出ています）。

当会では大塚士郎氏・播本繁氏が出場しています。

協会では日本障害者オープン大会の他に沖縄・九州大会・北海道大会・世界大会等があります。

障害者の方々から教えてもらった力は大変役立ちました。韓国やアメリカ・オーストラリア・ヨーロッパの方々は、戦場で負傷した傷痍軍人の人々が、国費で参加しています。アメリカでは、片マヒの会には国からの補助は無いそうです。

絶対に無理をせず自分の体調に合わせ、生活の中から人生を築き上げたく思います。

この病に悩んでいる人は沢山おります。大半の方々が自分の生きる道を見つけ努力して現在を生き抜いております。病気を自分なりに受容し、病に逆らわず、楽しく愉快に生きています。大会に出場することにより、多くの旅をすることにより、リハビリに成りました。旅行はリハビリに良いと思います。

趣味を生かし、自らの病を克服し、残りの人生を過ごしたく思います。

